



編集長 西田 直幸 氏
〒227-8501 東京都中央区新富1-1-1
利根川河口堰管理事務所

(執筆) 東総広域水道企業団 水質課長 西田直幸氏
(編集) 利根川河口堰管理事務所 水質課長 西田直幸氏

「みんなで考えよう 水環境問題」

ユーザーの声

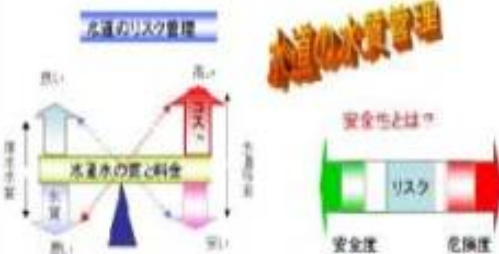
私は、30年間東総広域水道企業団に勤務し、主に、水質管理と浄水処理に携わってきましたが、今年3月末で退職となりました。関係者皆様のご指導とご文誼に心より感謝申し上げます。4月からは(財)千葉県薬剤師会検査センターに務めておりますので今後ともよろしくお願いたします。

「河口堰だより」も、第4号となり、第3号に続きましてユーザーの声シリーズで2回目の執筆依頼を受けることになりました。昨年10月から水資源開発公団が(独立行政法人)水資源機構に改名し、コスト意識やユーザーの

声を取り入れるなど経営理念が大きく改善されました。この「河口堰だより」も地域やユーザーに届着した運営を考慮してのことと思われ

今年、5月に水道法の水質基準が大幅に改正され、今年の4月から施行されました。この主な内容は、水質基準項目が46から50項目に増加したことと水質管理目標設定項目として27項目、農業類が101項目になりました。また、検査の方法も大きく変わり、さらには水質検査の精度管理が強化され、検査の信頼性保証体制が導入されたことと、この水質基準改正の背景には、水源の水質汚濁化、検査

水資源機構本社での執筆費贈演費資料より



有害物質に関する水質基準の考え方(リスクベース)
微生物計数単位、リスク
10^4/10^5/10^6/10^7/10^8/10^9/10^10/10^11/10^12/10^13/10^14/10^15/10^16/10^17/10^18/10^19/10^20
化学物質
・無毒/少毒/有毒/10^-6/10^-5/10^-4/10^-3/10^-2/10^-1/10^0/10^1/10^2/10^3/10^4/10^5/10^6/10^7/10^8/10^9/10^10/10^11/10^12/10^13/10^14/10^15/10^16/10^17/10^18/10^19/10^20

河口堰だより

地域を守る期止堰

発行所
独立行政法人水資源機構
利根川河口堰管理事務所
〒0478-86-0477

河口堰の四季

今年のアユの遡上開始日は?

春から秋にかけてアユは川の中流域で生活し、秋になると産卵します。孵化した稚魚は海に下り、翌春まで海で生活します。利根川



右岸魚道における調査の様子

河口堰では、毎年3月5月頃になると、海で育った体長7〜8cmのアユが群れをなして利根川を遡上する姿が見られます。利根川河口堰では、左右岸の各1箇所呼び水式階段魚道が設置されているので、魚道に採捕網を設置しどのような魚が魚道を利用してきているかを調査しています。



調査時に確認されたアユ

今年、3月11日に実施した調査(9時〜17時の計8時間実施)よりアユの遡上を確認されています。4月9日に実施した調査(6時〜18時の計12時間実施)で、1448尾のアユが遡上しているのが確認されたため、この日をアユの本格的な遡上開始日としました。

利根川の他にも、全国各地の河川でアユの遡上開始日が確認されています。国土交通省が行った調査として実施している「アユの遡上前線ホームページ」
(http://www.mlr.go.jp/river/ayu/index.html)
で紹介されています。利根川河口堰も、アユの遡上データを提供し、調査に協力しています。

一般開放のお知らせ

利根川河口堰管理事務所では、5月よりテニスコートを一般の方に無料開放しています。利用日は、土・日曜日と祝祭日の午前9時から午後5時(2時間毎)までとなっています。利用に際しましては予約が必要となります。申し込みは下記の電話番号までお願い致します。きれいなコートです。是非ご利用下さい。



管理所内のテニスコート

この広報誌に関するご意見・ご感想、並びに利根川河口堰へのご質問等は下記までお寄せ下さい。また、施設見学も受け付けています。広報担当、総務グループ 松本(まつもと) 井藤(いふじ)までご連絡ください。
〒289-0611
千葉県香取郡東庄町新街2276番地
水資源機構 利根川河口堰管理事務所
TEL 0478-86-0477
FAX 0478-86-3457
E-mail: tonekako@topz.ocn.ne.jp

地元の方であっても利根川河口堰がどのような役割を果たしているか知らない方が意外にも多いようです。今回のテニスコートの開放は、そんな利根川河口堰管理事務所が地域の方に親しんで頂けるようにとの思いからです。管理所内には展示ホールも整備し皆さんをお待ちしていますのでお気軽にお立ち寄り下さい。そして一人一人の職員が顔が見える管理所になっていければ幸いです。
(編集長直筆)



昨年夏工事だった
魚道整備工事の様子

毎年、8月1日から7日まで水の通間となつています。利根川河口堰管理所でも、この水の通間に合わせてイベントを開催しています。今年は8月8日(日)にイベントを開催します。家族で楽しんで頂けるような企画を計画していますので、是非お立ち寄り下さい。

イベント

○第1回懇談会(平成15年9月17日)では、それまでの魚道に関する調査の結果や、現魚道が有している課題について議論されました。

○第3回懇談会(平成16年2月18日)では、魚道改築の基本方針を踏まえた魚道改築基本構想案について議論されました。懇談会で決

「利根川河口堰魚道改築懇談会」は、利根川河口部における望ましい魚道整備のあり方について、学者、河川管理者、水産行政及び水産関係者による意見交換を行い、魚道改築の基本構想をまとめることを懇談会の目的として平成15年度に発足しました。

○第2回懇談会(平成15年11月26日)では、和田委員から全国の魚道に関する講話をいただき、その中で様々な事例を分かりやすく示していただきました。併せて、それを踏まえて、どのような基本方針で魚道改築を実施していくかについて議論されました。

短信・河口堰

魚道改築の基本構想がまとまりました

(3)川橋やサギなどの鳥類による捕食を抑制するよう工夫を各魚道に施す。

定された魚道改築基本構想は次のとおりです。
(1)既存の呼び水式魚道を有効に活用し、これを改築する。改築にあたっては、呼び水機能の向上のため、呼び水水路を開水路構造とする。同時に、魚道内の流況安定のため隔壁の形状等に配慮する。また隔壁が側面、底面下の壁と一体となって上下動する構造を盛り込むなど、現在よりもより適上しやすい呼び水式魚道に改良していく。
(2)泳ぐ力の小さい底生魚や甲殻類を含めた多様な魚種が利用可能な魚道として、長良川河口堰の「せせらぎ魚道」のような、緩い勾配で湖と湖を有し、流れを蛇行させた小川のような魚道を新設する。



長良川河口堰の「せせらぎ魚道」(干潮時)

この第3回懇談会をもって、「利根川河口堰魚道改築懇談会」は終了いたしました。利根川河口堰管理所では、この決定された魚道改築基本構想をもとに、事業化に向けての詳細検討を平成16年度に行っており、利根川河口堰の魚道改築は未だ緒に就いておりませんが、今後とも暖かく見守って下さいますようお願い致します。

この第3回懇談会をもって、「利根川河口堰魚道改築懇談会」は終了いたしました。利根川河口堰管理所では、この決定された魚道改築基本構想をもとに、事業化に向けての詳細検討を平成16年度に行っており、利根川河口堰の魚道改築は未だ緒に就いておりませんが、今後とも暖かく見守って下さいますようお願い致します。

利根川愛好会会長 林 敏夫

※(第1面続き)
そこで、より安全で良質な水道水を安定して享受するためには、水道水源である河川や地下水等の水質保全について、行政、水道事業者及び住民一人一人がそれぞれの立場で真剣に考え、行動をすることが必要であります。
自分達の飲み水の源を自分達が汚してはいけません。水環境問題は被害者が加害者でもある。この構図を再認識し、小さなことでもできることから改善することが大切であると思います。水質汚濁に関連する主なことを、次に列挙したので考えて見ましょう。
①生活排水はどうか。
(洗剤は必要以上に使用していないか、天ぷらの廃油回収はどうか。)
②事業所や病院の廃水処理施設は適正ですか。
③農機具や農業用ハウスの燃料油は公共用水域に流出していませんか。
④畜舎からの汚物や家畜の排泄物は適正に管理されていますか。
⑤農薬の使用は適切ですか。



水はみんなのもの 大切にしましょう

⑥廃棄物の不法投棄はしていませんか。
⑦下水道処理やし尿処理排水は適正ですか。
⑧水環境行政は円滑に進行していますか。
⑨効果的な水運用とダム管理など河川の総合的管理はどうか。
⑩危機管理対策はどうか。
⑪その他、水質汚濁原因に注意していませんか。
生活様式の高度化や多様化に伴い、水環境問題は深刻です。一人一人の認識が必要であり、より良い社会資本の構築と継承は私達の任務であります。どうか、古の山紫水明の復元に向けて、ご一考をお願いします。

利根川も時代の流れに伴い場所によって流路も変わってきました。特に天正18年(1590年)徳川家康は江戸に城地を定めると、それまで関東平野を東に流れ開沼辺りから今の江戸川を南下し東京湾に注いでいた利根川を、ここ開沼からさらに東に向け約18km間の合地部を開削し当時入海となっていた「香取海」と結ぶ大工事を実施しました。こうして「利根川

利根川下流沿川紀行

利根川も時代の流れに伴い場所によって流路も変わってきました。特に天正18年(1590年)徳川家康は江戸に城地を定めると、それまで関東平野を東に流れ開沼辺りから今の江戸川を南下し東京湾に注いでいた利根川を、ここ開沼からさらに東に向け約18km間の合地部を開削し当時入海となっていた「香取海」と結ぶ大工事を実施しました。こうして「利根川



今も利用されている小見川町の富田渡船

東遷」の事業が完成したことによって、鬼怒川や懸ヶ浦とつながった利根川は、関東・東北地方と江戸を結ぶ船の交通路として重要な役割を果たすようになりました。鮎子に海運と舟運(川を使っているいろいろな物を船で運ぶこと)を目的として港が築かれたのもこの頃のことです。
利根川沿いには河岸と呼ばれる船着場が整備され、利根川下流域からは米を初め佐原の酒、鮎子の海産物、醤油などの特産品が高瀬舟と呼ばれる帆掛け舟によって江戸に運ばれました。高瀬船にはいろいろな大きさのものがあり、一番大きなものは米を1200俵まで積めたそうです。これは4トントラックで18台分に相当する積荷となります。また風のない時は棹を漕いで航行するため、船には船頭、水主あわせらゝ7人が乗り込んでいました。
明治も中頃になると風に関係なく航行できる通運丸や鮎子丸といった蒸気船が就航し、鮎子から東京まで18時間程度で行

けるようになりました。しかし、明治も後半になると鮎子まで鉄道が敷かれ始め(現在の碓氷線、成田線が松原まで全線開通したのは昭和7年)、道路がつくられると次第に交通の主役は船から汽車や自動車に変わっていききました。大正8年(1919年)には通運丸が、昭和30年(1955年)頃には高瀬船が姿を消し、今では小見川町富田や佐原市津の宮の渡し舟などがみられるだけとなりました。舟運時代の懐かしい家並や船着き場は佐原市小野川沿い、それに小見川町黒部川沿いに一部そのまま残されています。